

阿づまの光

A Z U M A N O H I K A R I

わが如くあらぬを怒り恨むより
わが持つ世界を省みてみよ

【尊師 出口日出磨】



教主さまお作

灰釉茶盃

「白藤」

「みろく土、みろく村白藤釉」

日本魂とは

祭務課長 加藤道明

「日本魂」とは、一般にも大和魂や日本魂という言葉で使われていますが、大本では「日本魂と申すものは天地の先祖の神の精神と合一した心（伊都能売神論）」と示され、主の神より賦与された至粹至純の生粹の普遍精神をいい、また惟神の精神をいいます。『道の葉』には「日本は日本魂をもって建つる国なり。日本魂とは、平和、文明、自由、独立、人権を破る者に向かつて飽くまでも戦う精神をいうなり。無理非道なる強き悪魔を倒して、弱き者の権利を守る精神なり」と示されています。

また、本年の節分大祭教主さまごあいさつでは、「開教130年の節分を機に、いま一度、皆さまと共に開教の精神に立ち返り、初心、基本を大切に、身魂磨きに努め、誰に対しても、何事に対しても真心をもって明るく朗らかに大和魂を発揮し、光明に向かつて新しい春の一步を進ませていただきましょう」とお示しいただきました。

この2年にわたるコロナ禍の生活で、さまざまなことが浮き彫りになり、個々の幸せや生き方の価値観がそれぞれに大きく変わってきたのではないのでしょうか。昨年の教主さまのみろく大祭ごあいさつの一節には「これからの時代は、神さまを中心とした人間の在り方でない」と何事もうまく進まない、神さまから諭されているように感じております」と示されています。

私たちは、教御祖さま・教主さまのご教示をしっかりといただきながら、日本魂の精神を大切に、混迷の世を皆さまと共に邁進してまいりたいと思います。



春季大祭を執行

東光苑春季大祭は4月10日午前10時30分から、齋主・出口真人氏のもと執行し、163人が参拝した。

祭員は各主会の祭務部長ほか有志が、伶人は二絃の会関東支部、大本神諭拝読は岩澤兵衛神奈川主会長が担当した。

祭典後、二絃の会関東支部による八雲琴『春の調べ』が奉納された
II写真下。



引き続き、

橋本伸作東京宣教センター長があいさつ。続いて齋主の出口真人氏があいさつを行った**II写真左。**

なお、1階ロビーでは、衣類、みかん等の東京直心会バザーが催された。



祭典後、出口真人氏のあいさつ

東光苑オンライン講座

6月19日(日) 19:00～

心と体の健康のために
 ～医療の現場から～

講師：加藤眞三（慶應義塾大学名誉教授）



私は大本の在家信徒の一人ですが、2021年3月に慶應義塾大学を定年退職し、4月から上智大学と高輪のクリニックに勤務しています。前者ではスピリチュアルケアの研究と教育を、後者ではよろず相談の内科医として診療にあたっています。その環境の変化の中で感じ考えてきた、こころと身体の健康のために大切なことについてお話ししたいと思います。

大本東京本部ホームページをご覧ください！

東光苑月次祭の参拝について

東光苑月次祭は、新型コロナウイルスの感染拡大状況を注視しながら対応しています。ご参拝受け入れの規模などは、状況によって変更する場合がありますのでご了承願います。

なお、祭典の様子は、大本東京本部の信徒専用ページからライブ配信いたします。また、通常のご参拝は可能です。

6月 東光苑祭典・行事予定

12日(日) 午前10時30分

東光苑月次祭
 人類愛善会創立記念祭典・市杵島姫命例祭

19日(日) 午後7時

東光苑オンライン講座(配信)

講題 心と体の健康のために

～医療の現場から～

講師 加藤眞三(慶應義塾大学名誉教授)

25日(土) 午後1時30分

自己を見つめる集い(鎮魂と浄書)

※コロナの感染状況に伴い、行事の延期や中止、祭典の参拝を遠慮いただくなど、予定を変更する可能性があります。

東光苑 春季祭式講習会

東光苑春季祭式講習会は、3月19～21日の3日間、日帰りにて開催され、初級・中級・上級の計12人が参加した。

中級 = 写真下
 『結婚式』



初級 = 写真上
 『祓式行事』

上級 = 写真下
 『葬祭』



自己を見つめる集い

～鎮魂と浄書～

日程 6月25日(土)

午後1時30分～4時30分

会場 大本東京本部・東京宣教センター

内容 鎮魂 『大本神諭』の浄書

参加費 1000円

定員 15人(定員に達し次第、締め切り)

申込 氏名・所属・電話番号を明記の上、下記までお申し込みください。

東京宣教センター愛善宣教課

Tel 03-3821-3701 (担当・西山)

Mail k-nishiyama@oomoto.or.jp

締切 6月18日(土)

※「自己を見つめる集い」とは、信徒一人ひとりの信仰向上のため、自己研鑽する一助となることを目的としたプログラムです。(一般の方の参加も可)